

■■■■大学 ■■■■ ■■■■ 様

前略

先頃はお忙しいところ、お手紙を頂きありがとうございました。  
静岡市在住の杉村和高です。

頂いた手紙は大いに参考になり勉強になりました。特に、同封されましたパンフレットからは「流域治水」の考え方が良く理解出来て、「流域治水」が、私が承知していた概念よりも広範で有用なものであったことを痛感した次第です。また、私のWEB上の掲載についても既にご承知のとのこと、大変うれしく思いました。総じて、先生が、日本の治水について真剣取り組んでいる事がよく理解出来ました。先生や皆様の活動がより良い実りをもたらされますことを願わずにはられません。

そしてまた、私もその一員に加えて頂ける事を強く望んでいます。

さて、この手紙では先生にお願いをしたいことがありまして、それについて記述させていただきます。

先ず第一に、先の手紙では「流域治水がひらく川と人との関係」145頁の写真について言及させて頂きましたが、その溪流の復旧工法について説明を頂ければ嬉しく思うのです。先生が、既に河川の復旧に取り掛かられている事は嬉しく思っています。そこで、既に実践されているそれらの工法について詳しくお教え願いたく思っています。

と言うのも、私も、治水により効果がある工事方法を幾つか考えていますが、其の実践はほとんど無い状況にあるのです。また、私の考え方と先生の考え方とは、何らかの共通点があるのでは無いか、また相違点もあるに違いないと思うのです。ですから、双方の考えを付け合わせしてさらにより良い方法が発見できるのでは無いかと勝手に考えています。

例えば、写真を見ると小さな水流ではありますが、小さくは無い段差が幾つもあり、ちょっとした急流であると思われれます。しかしながら、水流中に設置されている石や岩の大きさは決して大きいとは言えない大きさである印象があります。これでは少し規模が大きな増水があれば、それらのほとんどは流下してしまう可能性があるのではないのでしょうか。また、その場所の上流側の状況も気になります。上流側に不都合があれば現場の状況も長続きしないでしょう。

先生が実践された復旧工法でもその方法の基になる考え方があるはずで、是非それらについてご教授頂きたく思っています。

たまたまですが、最近、私のWEB上の掲載で、河川の土砂流下と堆積の

基本的な考え方の箇所を書き換えました。「まえがき」～「新第3章」までです。写真も幾つか追加したので全体として以前よりも分かり易くなっているつもりです。出来ましたら、それらの記述もご参照されて、それぞれの同一箇所や違いの箇所をお教え願いたく思います。

第二に、お手紙にありました先生のお仲間の皆さんにも、私の考え方をご理解頂きたく思っていますので、それらの皆さんのお名前と勤務先等お教え願いたいのです。それらの方々に直接の手紙をお送りしたく考えています。

私も、何年前、つくばの研究所内で河川治水に関わり責任ある何人かの皆様に手紙を差し上げた事があります。でも、何らのご返事も頂けなく、お一人の方から儀礼的な手紙が頂けただけです。ですから、「私たちは川つくりを変えたいと思ひ長年にわたって取り組んでいるのですが」との手紙の文面には驚きました。国土交通省の皆さんの内に、現状の治水方法を改革する意志を持つ人がいるとは思ひもかけない事でした。

是非とも、お名前をお教え願います。私自身でも「巨象を倒すようであまりうまくいっていません」を様々な活動の中で実感しています。仲間を増やしてより良い知恵を結集することによって問題を解決するべきであると考えています。

それらの皆さんには、先ず、WEB上の掲載をお読み頂き実際の河川の状況も観察されて、事実を確かめて頂きたく思います。

私自身、如何に長年観察し考察を重ねて来たと言っても、何らの肩書も無い身では、河川の治水と自然回復に対してほとんど何の影響も与える事が出来ません。先生とそのお仲間の皆様と共に協力して事に当たれば、球磨川に限らず多くの問題、不都合が解決できるのではないのでしょうか。

日本から不必要な水害を無くし以前のように自然に恵まれた美しい国土を取り戻す事も可能になると考えています。

お問い合わせご連絡などをお待ちしています。どうぞよろしくお願ひ致します。

草々

2022年■■■月■■■日

■■■ ■■■■ ■■■■■■■■■■ ■■■■

杉村和高